

# はしもと人を 発見！

街の人の心意気を見た



世話人  
木下 貴明さん



会計  
田坂 真智さん



副代表  
一条 勝則さん



代表  
佐藤 金男さん

祭りでは結ばれる絆  
進化したい思いが  
街の未来を形作る

神様を祀るお祭り。おいせの杜神輿保存会 担ぎ手の会には、まるで神様に導かれたような4人の世話人がいます。

代表の佐藤 金男さん、副代表の一条 勝則さん、会計の田坂 真智さん、世話人 木下 貴明さんです。個性豊かな面々ですが、先代から世話人代表を継いだ佐藤さんを選ばれた3人。

「この祭りを残したい。祭り馬鹿が欲しい」と誘われ、「あ、祭り馬鹿でいいんですか？」って感じで受けました」と木下さん。一条さんは「元々、神輿の連絡員をやっていた『何か出来る事があれば』と引き受けました」田坂さんは「神輿の事は楽しいし、お声掛けいただいて『ありがたい』と思いました」と引き受けた理由も様々です。

しかし、この4人は一つの絆で結ばれていました。それが祭りです。

一条さんは「子ども達が将来『自分の街にはこんな祭りがある！』と、祭りの日には橋本へ帰ってくる。そんな祭りが理想ですね」と将来像を話します。そこに達するには、沢山の担ぎ手がいる事、沢山の人が見物に来てくれる事。この両輪が祭り成功の鍵となるようです。



その思いは見事に4人に共有されていきました。代表の佐藤さんは「お祭りに対する意識の方向性が合致している」といいます。

そんな新メンバーで始めた、祭りの存在や神輿を知ってもらおう活動。お正月の新年祭やお西様などで、神輿の展示とその説明、渡御の様子などのビデオ上映、半纏100着計画など、新たに試みしました。

それは、この祭りを知ってもらって、担ぐ人、観に来る人、とにかく人を集めたいとの佐藤さんの思いからです。しかし、やってみて分かった事は意外な結果でした。それは、地域の人達なら祭りを知っていて当然という意識が間違えていたこと。実際は、この祭りを知らない人が沢山いました。木下さんはこの結果を受け「こういう活動はとてつもなく大事だと気づいた」といいます。それは、

祭りの観衆を意識することが出来たからでした。一条さんは「今、木頭をやっている、どう観衆に祭りを楽しんでいたか考えますね」と木頭特有の魅せ方に言及します。そして、また来年も見たいと思ってもらえるか、その繰り返し重要だといっています。

佐藤さんは「子ども達が観に来てくれるのは嬉しい。子ども達がワイワイ出来れば、親御さんを含め横の繋がりも出来ますからね。そういう人たちが普段でも挨拶が出来るようになる祭りになれば」と祭りに関わった方々のコミュニケーション像まで意識しています。

「祭りをどう続けていくか」から、「観衆への意識とコミュニケーション」へと踏み込んだ思い。その進化した祭りへの思いは、着実に未来の橋本の祭りを作っています。